

一、傍線部の形容詞の活用の種類と活用形を答えよ。

1 いつものななき世なりせばいかばかり人の言の葉うれしからまし (古今集)

2 散ればこそいとど桜はめでたけれ。 (伊勢物語)

二、傍線部の形容詞の用法を、次のア〜エから選べ。

〈ア〉感動的な表現になり、文を言い切る イ、格助詞がついて 連体修飾語になる ウ、接尾語がついて他の品詞になる エ、接尾語がついて、原因・理由を表す

1 山高み見つつ我が来し桜花風は心に任すべらなり (古今集)

2 いで、あな心憂。これ仰せられよ。 (枕草子)

3 をかしの御にほひや。 (源氏物語)

三、( )内の形容詞を適切な形に活用させよ。

1 法師ばかり(うらやまし)ぬものはあらじ。 (徒然草)

2 ふと天の羽衣うち着せ奉りつれば、翁をいとほしく、(かなし)とおぼしつることも失せぬ。 (竹取物語)

四、傍線部の形容動詞の活用の種類と活用形を答えよ。

1 さやうの人の祭り見しさま、いと珍かなりき。 (徒然草)

五、傍線部の形容動詞の用法を、次のア〜ウから選べ。

〈ア〉感動的な表現になり、文を言い切る イ、格助詞がついて 連体修飾語になる ウ、接尾語がついて他の品詞になる

1 あなをかしげの御書きさまや。 (狭衣物語)

六、( )内の形容動詞を適切な形に活用させよ。

1 花は(盛りなり)、月はくまなきをのみ見るものかは。 (徒然草)

2 1 一  
シク活用・未然形  
ク活用・已然形

3 2 1 二  
イ ア エ

2 1 三  
うらやましから  
かなし

1 四  
ナリ活用・連用形

1 五  
イ

1 六  
盛りに